

## 「ならなぎ よりみちクラブ」活動報告

報告者： 上森 節子

日時	2024年10月10日(月) 10時00分～14時40分	天候	晴れ	コース名: 第50回よりみちクラブ
案内団体 又は催事名	竹林寺と長屋王墓を訪ねて		人数	大人:25名

集合:近鉄・菜畠駅 10時00分

ガイド:森田様、小山様(生駒市市観光ボランティアガイド)

行程:近鉄菜畠駅 10:00～従馬大社～竹林寺古墳～竹林寺、行基墓、忍性墓～圓福寺～往生院～南生駒駅

12:58 平群駅へ、周辺で昼食～長屋王、吉備内親王墓～平群駅14:45

出席者:・玉尾(洋)・玉尾(ひ)・服部・義田・北川・澤井・武田・上森・竹山・田中(和)・森・山下(裕)・山岡・福島  
嶋田・中谷・橋本・杉林・山下(み)・木邨・山田(勝)・宇野・米村・樋野・堀内(け)

10:00 ガイドさんの紹介、挨拶をして出発

10:15 従馬大社(いこまたいしゃ)

正しくは従馬座伊古麻都比古神社(いこまにいますいこまつひこじんじゃ)、生駒神社とも呼ばれる。

生駒山がご神体の古寺。古くから「火の神」として崇敬高く、広さ 3 ヘクタールに及ぶ鎮守の森は県の天然記念物に指定されている。また伝統行事の火祭りは毎年10月の体育の日の前日に執り行われ、古式豊かな伝統行事として県の無形民俗文化財にも指定されている。

現在本殿のご祭神は伊古麻都比古、伊古麻都比売(いこまつひこ、いこまつひめ)の二座に加え、八幡神五座合祀し、七柱を祀っている。

境内に神功皇后の本地仏である十一面觀音像を安置する觀音堂があり、この像を作ったのは、「運慶」ではなく「雲慶」作だという。

また、現在英靈殿が祀られている場所には幕末まで八角の宝壇がもうけられ、孝謙天皇の皇太子、道祖王の黄金の位牌を埋めた所と伝わる。

境内に他に、天皇の大嘗祭に関わる火きり木を探るウワズミザクラのご神木などもあった。

この桜の枝を切り縦割りにし削り、チップにし、カメの甲羅の下に敷き、燃やしてひび割れを見るという亀甲占いにより大嘗祭に米を献上する田を決めていたらしい。(齊田点定の儀)

御在位が長かった昭和から、平成になるとき、宮内庁のこのことの記録が飛んでしまい、春日大社にまちがって依頼されるということがあったと、ガイドさんが話してくれた。これはネットにはどこにも書いてはいなかった。あまり知られていないが由緒ある立派な大社であると、皆の感想。

11:10 竹林寺古墳

有里町の竹林寺境内にある。古墳時代前期後半(4世紀後半)の前方後円墳で、生駒山から東に派生する尾根上に築かれている。前方部が宅地で削られている。推定全長60メートル後円部径45メートル 戦前の発掘で「長宣子孫」銘の内行花文鏡(ないこうかもんきょう)、円筒埴輪片などが出土した。

11:15 竹林寺

更にコケで滑りそうになりながら山道を奥に入ったところに行基さんの墓のある竹林寺がある。

名前の通り、竹に囲まれた坂道を登ったら、まだ新しい本堂と綺麗に整備された庭が広がっていた。堂本堂の右手に行基さんの墓がひっそりとあった。

奈良では説明を省けない行基さんの眠るお墓。自然に「いつもありがとうございます」の言葉が出て、一同で合掌。

行基さんはこの近くで修行されていたとき、母親と暮らしておられたが、最期を看取られ、ご自身が82歳で人生を終え、母親の近くに眠りたいとこの地に埋葬されたという。

他に行基を尊敬していた忍性さんの墓も、行基さんの墓の方に向けられ建てられていた。

この寺のご本尊は文殊菩薩騎獅像。生馬仙坊が前身のこの寺は、荒廃と復興を繰り返し、平成9年に故中尾良蔵氏が中心となり、本堂を再建、各地に散らばっていた行基の顕彰碑なども集めたそうだ。今はボランティアで自主的掃除をしたり、樹木の手入れなども行って大切に守られている。

### 11:45 圓福寺

奈良時代行基により創建と伝わるが、詳細は不明。

ご本尊は阿弥陀如来、真言律宗の寺、本堂は鎌倉時代に再建された。重要文化財。境内に永仁元年の銘が入った宝篋印塔(重文)が二基並ぶ。ガイドさんの話だと、すみ飾りという縁の装飾があまり開いていないデザインの方が古いらしい。幾度も火災に遭い創建以来の寺歴は謎。

長い石段を手摺りを頼りにほうほうの体で上がり、皆かなり息を切らしていた。ご好意で本堂を見せていただけた。平安後期の十一面観音と、阿弥陀如来が小さいながらも塑像であるからか、存在感のあるお方がただだった。上がって良かつたと、一同、ご住職に感謝。

### 12:10 往生院

華嚴宗の寺院で、行基がなくなったとき、遺言により火葬し遺骨の一部を葬ったのがこの地であったと伝わる。本尊は行基菩薩。

小さな本堂の裏手に行基の墓塔と言われる五輪塔が安置されている。所々削りとられた跡があり、痛々しかった。削っていった人には御利益より罰が当たりそうだと思った。蚊に悩ませられながら、本堂北にある。重要文化財の宝篋印塔を見る。正元元年(1259)の銘があり、県内最古とされているのだそうだ。やはり、すみかざりは簡素で開いていなかった。ここで記念撮影。

### 12:40 南生駒駅

ガイドさんの時間調整のおかげで、予定の12:50分より少し早めに到着。

ボランティアガイドのお二人とはここまで。お礼を言ってお土産のお菓子を渡してならなぎ会員は王寺行き12:58分発で平群駅に移動。

13:08 お弁当組と外食組とに別れて一時解散。14時平群町総合文化センター前で再集合

14:10 お昼を済ませて再集合。長屋王の墓まで移動。

14:20 長屋王墓、吉備内親王の墓(双墓)

長屋王は壬申の乱で活躍した高市皇子の長子であり、天武天皇の皇族でもありその血筋の良さから729年皇位継承にからみ、謀反の疑いをかけられ、妻の吉備内親王と四人の息子とともに、自殺に追い込まれた。(長屋王の変)

続日本書紀に夫妻が生駒山に葬られたとあるが、近世の資料に平群郡、梨本に「長墓」「宇司墓」と呼ばれる二つの塚が夫妻の墓との伝承がみえ、明治末年宮内庁により整備された。

長屋王の墓は、直径15メートル、吉備内親王の墓は直径20メートルの円墳。

住宅地の中のこんな所に、と言う場所にあり、古墳のスピリチュアルな感じは全くない。

この石段で午後の記念撮影。ガイドは樋野さん。

14:40 平群駅

挨拶、王寺方面と生駒方面に分かれて解散

### 所感等

涼しくなったのは朝だけでした。昼になるにつれ暑くなり、25人の団体で歩くのは列が長くなり、歩くスピードも徐々に遅くなり、お一人でガイドされていた為、時間どおりに進めるのは難しかったと思われます。確かに石段や急な坂道が多く、辛かった人もいたと思います。しかし事故もなく無事に終了できました。ガイドさんの一人が最後尾について下さったのがありがたかったです。

### (特記事項)

持ち物に弁当と書かれていたことで、途中でお弁当を買って来た人がみんなと外食したかったと怒っている人がいました。

費用:ガイド氏にお礼のお菓子 2040円

ガイド料は無料。

